

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|---|---------------|-----------------|
| 科目名 | コミュニケーション論 I | 指導担当者名 | 木村美紀子 |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 30時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 社会人として必要な心構えとビジネスマナーを習得。 ロールプレイング・練習問題を通して理解へと繋げる。 | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | |
| 使用教材 | 期末試験、出席率、授業態度により評価する | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | コミュニケーションの持つ力 | コミュニケーションを考える |
| | 2 | 聞く力 | 目的に即して聞く |
| | 3 | 聞く力 | 傾聴・質問する |
| | 4 | 話す力 | 目的を意識する |
| | 5 | 話す力 | 目的を意識する |
| | 6 | 話す力 | 話を組み立てる |
| | 7 | 話す力 | 話を組み立てる |
| | 8 | 話す力 | 表現・伝達する |
| | 9 | 話す力 | 表現・伝達する |
| | 10 | コミュニケーション実践 | 来客対応 |
| | 11 | コミュニケーション実践 | 電話対応 |
| | 12 | コミュニケーション実践 | アポイントメント・訪問・挨拶 |
| | 13 | 前期試験 | 前期試験 |
| | 14 | 前期試験解説 | アポイントメント・訪問・挨拶 |
| | 15 | コミュニケーション実践 | 情報共有の重要性 |
| | 16 | コミュニケーション実践 | チームコミュニケーション |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|---|-----------|-----------------|
| 科目名 | コミュニケーション論 I | 指導担当者名 | 木村美紀子 |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 30時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 社会人として必要な心構えとビジネスマナーを習得。 ロールプレイング・練習問題を通して理解へと繋げる。 | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | |
| 使用教材 | コミュニケーション技法、コミュニケーション検定初級過去問題集 | | |
| 授業外学習の方法 | 行った内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 17 | 話す力 | 応用 |
| | 18 | 話す力 | クレーム対応 |
| | 19 | 話す力 | 会議・取材・ヒアリング |
| | 20 | 面接 | 面談試験対策 |
| | 21 | 面接 | ロールプレイングで練習 |
| | 22 | 面接 | 各自練習し改善する |
| | 23 | 面接 | 受け答えの基本 |
| | 24 | 面接 | スピーチの練習 |
| | 25 | 礼状の書き方 | 練習 |
| | 26 | 模擬試験 | 過去問題、解説 |
| | 27 | 模擬試験 | 過去問題、解説 |
| | 28 | 模擬試験 | 過去問題、解説 |
| | 29 | 模擬試験 | 過去問題、解説 |
| | 30 | 模擬試験 | 過去問題、解説 |
| 31 | 後期試験 | 後期試験 | |
| 32 | 後期試験解説 | 後期試験解説 | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|------------|------------------------|
| 科目名 | キャリアプラン I | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習:◎ 実技: |
| 時間数 | 44時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 自己分析や生涯設計を通して、社会へ巣立つ準備を積み重ねていく | | |
| 評価方法 評価基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・成果物の出来栄え(完成度・オリジナル性・表現力・プレゼン力・一般常識) ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する | | |
| 使用教材 | ウイネット 面接対策&ビジネスマナー | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 1 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 2 | スーツの着こなし講座 | 外部講師による特別授業 |
| | 3 | | |
| | 4 | 学校のシステムの紹介 | カレトモ・申請書発行サービスの使い方 |
| | 5 | 就職活動準備 | マイナビの登録・使い方 |
| | 6 | 就職活動準備 | グループディスカッション |
| | 7 | 就職活動準備 | ディベート |
| | 8 | ICT教育 | 動画作成アプリの使い方 |
| | 9 | ICT教育 | 動画作成アプリの使い方 |
| | 10 | ICT教育 | 動画作成アプリの使い方 |
| | 11 | ICT教育 | Google関連サービス(スプレッドシート) |
| | 12 | ICT教育 | Google関連サービス(フォーム) |
| | 13 | | |
| | 14 | 就職活動準備 | STEP研修に向けての案内・準備 |
| | 15 | | |
| | 16 | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|---|-------------|------------------|
| 科目名 | キャリアプラン I | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科 1年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習:◎ 実技: |
| 時間数 | 44時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 自己分析や生涯設計を通して、社会へ巣立つ準備を積み重ねていく | | |
| 評価方法 評価基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・成果物の出来栄(完成度・オリジナル性・表現力・プレゼン力・一般常識) ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する | | |
| 使用教材 | ウイネット 面接対策&ビジネスマナー | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後 期 | 17 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 18 | | |
| | 19 | | |
| | 20 | ビジネスマナー基礎 | 第一部 I. 社会人になるとは① |
| | 21 | ビジネスマナー基礎 | 第一部 I. 社会人になるとは② |
| | 22 | | |
| | 23 | 面接対策 | 第二部 II. 自己分析① |
| | 24 | 面接対策 | 第二部 II. 自己分析② |
| | 25 | | |
| | 26 | 面接対策 | 第二部 III. 履歴書 |
| | 27 | 面接対策 | 第二部 III. 自己PR② |
| | 28 | 面接対策 | 第二部 III. 自己PR③ |
| | 29 | | |
| | 30 | | |
| 31 | 期末試験 | 期末試験 | |
| 32 | 期末試験フィードバック | 期末試験フィードバック | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|------------|------------------------------|-------|
| 科目名 | 一般教養演習 I | | 指導担当者名 | 遠藤 紀子 |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科1年 | |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習:○ | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 30時間 | 週時間数 | 1時間 | |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・就職採用試験に向けての準備(一般教養、SPI) ・就職支援サイト等を活用しWeb模擬試験を受験 ・就職に対するモチベーションの向上 ・iPadの積極的な活用(データでの情報共有) | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | 専門学校生のための就職筆記試験対策問題集、iPad、プリント | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | 自己紹介、今後の授業の進め方 | |
| | 2 | 就職支援サイトの活用 | 就職支援サイトの登録、一般常識とSPIの違いについて説明 | |
| | 3 | 国語 | 漢字の読み①音読み | |
| | 4 | 国語 | 漢字の読み②訓読み | |
| | 5 | 国語 | 漢字の読み③会社、ビジネス社会でよく使われる用語 | |
| | 6 | 社会 | 都道府県 | |
| | 7 | 社会 | 都道府県庁所在地 | |
| | 8 | 社会 | 都道府県と都道府県庁所在地の確認テスト | |
| | 9 | 数学 | 式と計算① | |
| | 10 | 数学 | 式と計算② | |
| | 11 | 数学 | 速さの基礎 | |
| | 12 | 英語 | 基本単語 | |
| | 13 | 英語 | 時事英語 | |
| | 14 | 英語 | 熟語、英略語 | |
| | 15 | 英語 | 発音、ことわざ | |
| | 16 | 英語 | 文法 | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|------------|----------------------------|
| 科目名 | 一般教養演習 I | 指導担当者名 | 遠藤 紀子 |
| 実務経験 | | | 実務経験: 無 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 1年(スポーツビジネス科・ホテルビジネス科・観光科) |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習:○ | 実習: 実技: |
| 時間数 | 30時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・就職採用試験に向けての準備(一般教養、SPI) ・就職支援サイト等を活用しWeb模擬試験を受験 ・就職に対するモチベーションの向上 ・iPadの積極的な活用(データでの情報共有) | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | 専門学校生のための就職筆記試験対策問題集、iPad、プリント | | |
| 授業外学習の方法 | 課題プリントで自主学習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 17 | 数学 | 旅人算、通過算 |
| | 18 | 数学 | 流水算 |
| | 19 | 数学 | 割合の基礎 |
| | 20 | 社会 | 世界地理① |
| | 21 | 社会 | 世界地理② |
| | 22 | 社会 | 日本史 |
| | 23 | 社会 | 世界史 |
| | 24 | 国語 | 漢字の書き取り① |
| | 25 | 国語 | 漢字の書き取り② |
| | 26 | 国語 | 同意語・類義語 |
| | 27 | 国語 | 反対語 |
| | 28 | 国語 | 四字熟語 |
| | 29 | 数学 | 図形と角度 |
| | 30 | 期末試験 | 期末試験 |
| 31 | 国語・社会・数学・英語 | 総復習 | |
| 32 | Web模擬試験 | Web模擬試験の実施 | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|-----------|-----------------|
| 科目名 | 旅行業法 | 指導担当者名 | 熊田 芳子 |
| 実務経験 | 航空会社および旅行会社にて14年従事 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | 国内旅行業務取扱管理者試験に合格する為の知識を身につける為。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | U-CANテキスト | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | 旅行業法 | 目的・定義 |
| | 2 | 旅行業法 | 申込手続・業務の範囲 |
| | 3 | 旅行業法 | 申込手続・業務の範囲 |
| | 4 | 旅行業法 | 登録 |
| | 5 | 旅行業法 | 登録 |
| | 6 | 旅行業法 | 営業保証金 |
| | 7 | 旅行業法 | 営業保証金 |
| | 8 | 旅行業法 | 取扱管理者 |
| | 9 | 旅行業法 | 料金・約款 |
| | 10 | 旅行業法 | 取引条件・書面 |
| | 11 | 旅行業法 | 取引条件・書面 |
| | 12 | 旅行業法 | 外務員・広告・標識 |
| | 13 | 旅行業法 | 旅程管理・禁止行為 |
| | 14 | 旅行業法 | 代理業・受託販売 |
| | 15 | 旅行業法 | 業務取消・改善命令・苦情 |
| | 16 | 期末試験 | 期末試験 |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|--------------|-----------------|
| 科目名 | 旅行業約款 | 指導担当者名 | 熊田 芳子 |
| 実務経験 | 航空会社および旅行会社にて14年従事 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 48時間 | 週時間数 | 3時間 |
| 学習到達目標 | 国内旅行業務管理者試験に合格する為の知識を身につける。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | U-CANテキスト | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | 旅行業約款(企画旅行) | 総則 |
| | 2 | 旅行業約款(企画旅行) | 契約の締結・書面 |
| | 3 | 旅行業約款(企画旅行) | 契約の締結・書面 |
| | 4 | 旅行業約款(企画旅行) | 契約の変更・解除 |
| | 5 | 旅行業約款(企画旅行) | 契約の変更・解除 |
| | 6 | 旅行業約款(企画旅行) | 団体契約・旅程管理・責任 |
| | 7 | 旅行業約款(企画旅行) | 団体契約・旅程管理・責任 |
| | 8 | 旅行業約款(企画旅行) | 特別補償規定 |
| | 9 | 旅行業約款(手配・相談) | 特別補償規定 |
| | 10 | 運送約款 | 運送約款 |
| | 11 | バス約款 | バス約款 |
| | 12 | 宿泊約款 | 宿泊約款 |
| | 13 | 期末試験 | 期末試験 |
| | 14 | 国家試験対策 | 国家試験対策 |
| | 15 | 国家試験対策 | 国家試験対策 |
| | 16 | 国家試験対策 | 国家試験対策 |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|-----------|---------------------------------------|--------|---|
| 科目名 | 国内旅行実務A | | 指導担当者名 | 平野 二美子 | |
| 実務経験 | ホテルおよび全国通訳案内士で通訳業務に6年間従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科1年 | | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 78時間 | | 週時間数 | 5時間 | |
| 学習到達目標 | 国内旅行業務取扱管理者試験に必要な実力の養成 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 国内観光資源 / 国内観光地理サブノート/ 速習問題集 / プリント | | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 前期 | 1 | 国内観光資源 | 北海道、青森県 | | |
| | 2 | 国内観光資源 | 岩手県、宮城県・秋田県 | | |
| | 3 | 国内観光資源 | 祝日(休講)山形県(5/7)、福島県・茨城県(5/8) | | |
| | 4 | 国内観光資源 | 栃木県・群馬県(5/13)、埼玉県・千葉県(5/14)東京都(5/15) | | |
| | 5 | 国内観光資源 | 神奈川県・伊豆(5/20)、新潟県(5/21)休講(5/22) | | |
| | 6 | 国内観光資源 | 富山県・石川県(5/27)、福井県(5/28)山梨県・長野県(5/29) | | |
| | 7 | 国内観光資源 | 岐阜県・静岡県(6/3)、愛知県(6/4)三重県・滋賀県(6/5) | | |
| | 8 | 国内観光資源 | 京都府(6/10)、休講(6/11, 6/12) | | |
| | 9 | 国内観光資源 | 大阪府・兵庫県(6/17)、奈良県(6/18)和歌山県・鳥取県(6/19) | | |
| | 10 | 国内観光資源 | 島根県・岡山県(6/24)、広島県(6/25)山口県・徳島県(6/26) | | |
| | 11 | 国内観光資源 | 香川県・愛媛県(7/1)、高知県(7/2)福岡県・佐賀県(7/3) | | |
| | 12 | 国内観光資源 | 長崎県・熊本県(7/8)、大分県(7/9)宮崎県・鹿児島県(7/10) | | |
| | 13 | 国内観光資源 | 祝日(7/15)沖縄県(7/16)、期末試験前学習(7/17) | | |
| | 14 | 国内観光資源 | 期末試験(7/22)、過去問題演習(7/23, 24) | | |
| | 15 | 国内観光資源 | 過去問題演習 | | |
| | 16 | 国内観光資源 | カテゴリー別資源、まとめ | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|-------------------|--------------------------|-------|---|
| 科目名 | 国内旅行実務B | | 指導担当者名 | 佐藤 宗 | |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 前期 | | 対象学科学年 | 観光科1年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 56時間 | | 週時間数 | 4時間 | |
| 学習到達目標 | 国内旅行業務取扱管理者試験に合格できる実力を身に付ける。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | JTB総合研究所 国内運賃料金 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 前期 | 1 | 導入 | 科目存在理由の説明 | | |
| | 2 | 第1部 第1章 旅客営業規則の概要 | 用語の意義、原則、契約、キロ数の端数、期間 | | |
| | 3 | 第1部 第2章 乗車券類販売の概要 | JRの乗車券類、運賃と料金、年齢区分、発売日 | | |
| | 4 | 第1部 第3章 運賃料金 | 原則、種類、特例、効力、割引 | | |
| | 5 | 第1部 第4章 運賃料金 | 原則、種類、特例、効力、割引 | | |
| | 6 | 第1部 第4章 料金計算 | 原則、乗継割引 | | |
| | 7 | 第1部 第5章 料金計算 | 乗継割引 | | |
| | 8 | 第1部 第6章 料金計算 | 山形新幹線・秋田新幹線 | | |
| | 9 | 第1部 第7章 料金計算 | 九州新幹線 | | |
| | 10 | 第1部 第6章 団体乗車券の取扱い | 発売 | | |
| | 11 | 第1部 第7章 団体乗車券の取扱い | 割引、無賃扱い | | |
| | 12 | 第2部 第1章 航空券販売の概要 | 航空会社、空港コード、予約、有効期間、運賃の種類 | | |
| | 13 | 第2部 第2章 運賃・料金等 | 航空券の運賃・料金、割引運賃、変更、取消、払戻 | | |
| | 14 | 第3部 第1章 社線 | 貸切バス | | |
| | 15 | 第3部 第2章 貸切バス・船・宿泊 | フェリー、宿泊 | | |
| | 16 | 期末試験 | 期末試験 | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|--------------|--------------------|-------|---|
| 科目名 | 国内観光資源 | | 指導担当者名 | 佐藤 宗 | |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 後期 | | 対象学科学年 | 観光科1年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 28時間 | | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | 国内の観光地を楽しく学び、プレゼンテーションする | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | | | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 前期 | 17 | オリエンテーション | オリエンテーション | | |
| | 18 | 発表準備 | 各エリアの中から発表する地域検討 | | |
| | 19 | 発表準備 | 発表資料作成 | | |
| | 20 | 発表準備 | 中間確認 | | |
| | 21 | 発表準備 | 発表資料のブラッシュアップ | | |
| | 22 | 発表準備 | リハーサル | | |
| | 23 | 発表 | 発表 | | |
| | 24 | 発表準備 | 各エリアの中から発表する地域検討 | | |
| | 25 | 発表準備 | 発表資料作成 | | |
| | 26 | 発表準備 | 中間確認・発表資料のブラッシュアップ | | |
| | 27 | 発表準備 | リハーサル | | |
| | 28 | 発表 | 発表 | | |
| | 29 | 期末試験案内等 | 期末試験案内等 | | |
| | 30 | 期末試験 | 期末試験 | | |
| 31 | 期末試験フィードバック① | 期末試験フィードバック① | | | |
| 32 | 期末試験フィードバック② | 期末試験フィードバック② | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|-------------|-----------------|
| 科目名 | 国内旅行業務取扱管理者対策 | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習:○ | 実習: 実技: |
| 時間数 | 84時間 | 週時間数 | 2~30時間 |
| 学習到達目標 | 国内旅行業務取扱管理者試験に合格できる実力を身に付ける。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | JTB総合研究所 模擬試験、過去問題等 | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | 国家試験の解答ポイント | 国家試験の解答ポイント |
| | 2 | 国家試験の解答ポイント | 国家試験の解答ポイント |
| | 3 | 国家試験の解答ポイント | 国家試験の解答ポイント |
| | 4 | 国家試験の解答ポイント | 国家試験の解答ポイント |
| | 5 | 模擬試験・過去問題 | 模擬試験・過去問題 |
| | 6 | 模擬試験・過去問題 | 模擬試験・過去問題 |
| | 7 | 模擬試験・過去問題 | 模擬試験・過去問題 |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| | 16 | | |
| <p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------------|--|---|--|
| 科目名 | 観光英語 I A | 指導担当者名 | 平野 二美子 |
| 実務経験 | ホテルおよび全国通訳案内士で通訳業務に6年間従事 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習:○ | 実習: 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | 観光英語検定試験2級・3級合格に必要な実力の養成(10月下旬) | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | English for Tourism (Basic) / 観光英語検定試験頻出150項目 / 観光英語過去問題 / プリントなど | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | Unit 1 Travel Day 1 | 1 Vocabulary, 2 Conversation, 頻出150項目p.153~156 |
| | 2 | Unit 1 Travel Day 2 | 3 Listening, 4 Reading part1 & 2, Unit1 小テスト |
| | 3 | Unit 1 Travel Day 3 | 5 Writing, 6 Role-play part1, 2 & 3, 連休課題のチェック第37回 |
| | 4 | Unit 2 Jobs & People Day 1 | 1 Vocabulary, 2 Conversation, 3 Listening, 小テスト課題から |
| | 5 | Unit 2 Jobs & People Day 2 | 4 Reading, part 1,2 & 3, 頻出150項目p.121~122、小テストUnit2 |
| | 6 | Unit 2 Jobs & People Day 3 | 5 Writing, 6 Pair work, part1 & 2, 過去問題第37回 小テスト頻出 |
| | 7 | Unit 3 Getting on the plane Day 1 | 1 Vocabulary, 2 Conversation, 3 Listening, 頻出項目p.142~152 |
| | 8 | Unit 3 Getting on the plane Day 2 | 4 Reading, 5 Writing, 6 Role-play, 頻出項目p.142~152 小テストU3 |
| | 9 | Unit 3 Getting on the plane Day 3 | 頻出項目p.142~152 |
| | 10 | Unit 4 At the Immigration and Customs Day 1 | 1 Vocabulary, 2 Conversation, part1&2, 頻出項目p.122~140 |
| | 11 | Unit 4 At the Immigration and Customs Day 2 | 3 Reading, 4 Writing, 頻出項目p.122~140, 小テストUnit4 |
| | 12 | Unit 4 At the Immigration and Customs Day 3 | 5 Role-play, 頻出項目p.122~140 |
| | 13 | 前期学習のまとめ | テキスト、頻出項目150 |
| | 14 | 前期末試験 | 1時限目:復習、2時限目:試験 |
| | 15 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 16 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------------|--|-----------------------------|--|
| 科目名 | 観光英語 I B | 指導担当者名 | 平野 二美子 |
| 実務経験 | ホテルおよび全国通訳案内士で通訳業務に6年間従事 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習:○ | 実習: 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | 出席率(10%)、授業態度(10%)、小テスト等(20%)、期末試験(60%) | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | English for Tourism (Basic) / 観光英語検定試験頻出150項目 / 観光英語過去問題 / プリントなど | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後期 | 17 | | |
| | 18 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 19 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 20 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 21 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 22 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 23 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 24 | | |
| | 25 | Unit 5 Day 1 At the Airport | 1 Vocabulary, 2 Conversation, 3 Listening, Words & Phrases |
| | 26 | Unit 5 Day 2 At the Airport | 4 Reading, 5 Writing, 6 Role-play, 小テスト Unit 5 |
| | 27 | Unit 5 Day 3 At the Airport | 頻出項目: 空港・飛行機編の復習と道案内への対応p.229~ |
| | 28 | 過去問解析・頻出150項目 | 様々な場面での専門的な用語や言い回しを習得する |
| | 29 | 過去問解析・頻出150項目 | 様々な場面での専門的な用語や言い回しを習得する |
| | 30 | 後期学習のまとめ | テキスト、頻出項目150 |
| 31 | 学年末試験 | 1時限目: 復習、2時限目: 試験 | |
| 32 | 観光英語授業のまとめ | 1年間の授業を振り返り、今後の学習の動機付けとする | |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--|--|--------------|-----------------|
| 科目名 | 国内旅行プランニング I | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 64時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | 旅行会社で必要となるプランニング力を養う。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 2 | 日帰り研修に向けて | 調査・研究 |
| | 3 | | |
| | 4 | 日帰り研修に向けて | 調査・研究 |
| | 5 | 日帰り研修に向けて | まとめたものを発表 |
| | 6 | 研修旅行(台湾)に向けて | 調査・研究 |
| | 7 | 研修旅行(台湾)に向けて | 調査・研究 |
| | 8 | 研修旅行(台湾)に向けて | 台湾・研修旅行 |
| | 9 | 研修旅行(台湾)に向けて | 研修旅行(台湾) まとめ |
| | 10 | 研修旅行(台湾)に向けて | 研修旅行(台湾) まとめ |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| | 16 | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|------------|-----------------|-------|---|
| 科目名 | 国内旅行プランニング I | | 指導担当者名 | 佐藤 宗 | |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 | | 対象学科学年 | 観光科1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 64時間 | | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | 旅行会社で必要となるプランニング力を養う。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | | | | | |
| 授業外学習の方法 | 行った内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後期 | 17 | | | | |
| | 18 | オリエンテーション | オリエンテーション | | |
| | 19 | 旅行関連知識 | 旅行業の魅力・やり甲斐 | | |
| | 20 | 旅行関連知識 | バス旅行の具体例 | | |
| | 21 | 旅行関連知識 | 観光地・観光資源 | | |
| | 22 | 旅行関連知識 | 時刻表 | | |
| | 23 | 旅行関連知識 | 添乗について | | |
| | 24 | 旅行関連知識 | 旅行のパンフレット | | |
| | 25 | プランニング | コース立案のポイント | | |
| | 26 | プランニング | プランニング体験 | | |
| | 27 | プランニング | 発表準備 | | |
| | 28 | プランニング | 発表 | | |
| | 29 | 研修旅行プランニング | オリエンテーション | | |
| | 30 | 研修旅行プランニング | グループ分け・目的地研究 | | |
| 31 | 研修旅行プランニング | プランニング | | | |
| 32 | 研修旅行プランニング | プランニング | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|-------------|-----------------|-------|---|
| 科目名 | 海外観光資源 | | 指導担当者名 | 熊田 芳子 | |
| 実務経験 | 航空会社および旅行会社にて14年従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 後期 | | 対象学科学年 | 観光科1年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 18時間 | | 週時間数 | 1時間 | |
| 学習到達目標 | 海外の地理、観光名所に興味を持つ。地理検定3級合格に必要な知識を身につける。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 海外観光資源 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後期 | 17 | | | | |
| | 18 | オリエンテーション | オリエンテーション | | |
| | 19 | 海外観光資源 | 海外旅行の概要 | | |
| | 20 | 海外観光資源 | 世界遺産 | | |
| | 21 | 海外観光資源 | 海外のパンフレット/アジアの国 | | |
| | 22 | 海外観光資源 | 中国 | | |
| | 23 | 海外観光資源 | 韓国 | | |
| | 24 | | | | |
| | 25 | 海外観光資源 | 台湾 | | |
| | 26 | 海外観光資源 | シンガポール | | |
| | 27 | 海外観光資源 | タイ | | |
| | 28 | 海外観光資源 | ベトナム | | |
| | 29 | 海外観光資源 | 中央アジア | | |
| | 30 | 海外観光資源 | 中央アジア | | |
| 31 | 期末試験 | 期末試験 | | | |
| 32 | 期末試験フィードバック | 期末試験フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|---|--------------|-------------------|-------|---|
| 科目名 | 観光実務 I | | 指導担当者名 | 佐藤 宗 | |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 | | 対象学科学年 | 観光科1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 88時間 | | 週時間数 | 2~4時間 | |
| 学習到達目標 | 観光業に関わる知識を養うとともに、 福島県のサポート事業の企画・運営を行なう。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | | | |
| 使用教材 | | | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | オリエンテーション | | |
| | 2 | 休み | 休み | | |
| | 3 | 平成30年度サポート事業 | 平成30年度サポート事業 振り返り | | |
| | 4 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 旅行前説明会 | | |
| | 5 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 海外旅行保険案内 | | |
| | 6 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 調査・研究 | | |
| | 7 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 調査・研究 | | |
| | 8 | 休み | 休み | | |
| | 9 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) まとめ | | |
| | 10 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) まとめ | | |
| | 11 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 報告会 | | |
| | 12 | 2019年度サポート事業 | アンケート作成 | | |
| | 13 | 2019年度サポート事業 | アンケート修正 | | |
| | 14 | 2019年度サポート事業 | アンケート分析・研究 | | |
| | 15 | 2019年度サポート事業 | プランニング | | |
| | 16 | 2019年度サポート事業 | プランニング | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|--------------|-----------------|
| 科目名 | 観光実務 I | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 88時間 | 週時間数 | 2~4時間 |
| 学習到達目標 | 旅行会社で必要となるプランニング力を養う。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後期 | 17 | | |
| | 18 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 19 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 20 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 21 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 22 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 23 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 24 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 25 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 26 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 27 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー最終準備 |
| | 28 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー実施 |
| | 29 | 2019年度サポート事業 | モニターツアーまとめ |
| | 30 | 2019年度サポート事業 | モニターツアーまとめ |
| 31 | 2019年度サポート事業 | モニターツアーまとめ | |
| 32 | 2019年度サポート事業 | モニターツアーまとめ | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|---|--|---|-------|---|
| 科目名 | Word実習 | | 指導担当者名 | 高橋 幸代 | |
| 実務経験 | IT会社にてインストラクター業務に18年間従事した経歴 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 前期 | | 対象学科学年 | 観光科1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 48時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 文書作成の基本的な編集機能、罫線機能、図形機能を中心に詳細な操作方法を学習します。 Word 文書処理技能認定試験 3級 の合格を目指しています。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | | | |
| 使用教材 | Microsoft Word2016 クイックマスター基本編、Word 文書処理技能認定試験 3級 問題集 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 前期 | 1 | Chapter1 Wordの基本 Chapter2 文字の入力と編集の基本操作 | Wordの起動 Wordの画面構成 既存の文書を開く 画面の操作 画面の表示モード Wordの終了、新規文書の作成 日本語入力システム 文字の入力と変換 単語の登録 文書の保存 文字の選択 文字列の編集とコピー・移動 操作アシストの使い方 | | |
| | 2 | Chapter3 文書の編集 | ページの書式設定 文字の書式設定 文字幅と文字間隔の設定 文字列の配置 字下げと行間の設定 禁則処理 罫線と網かけ | | |
| | 3 | Chapter4 文書の印刷 | 改ページの挿入 ヘッダーとフッターの設定 印刷イメージの確認方法 印刷の実 | | |
| | 4 | Chapter5 文書の作成 | 入力オートフォーマット/あいさつ文 入力オートフォーマット/段落番号 段落番号の書式設定 条書きの設定 タブ インデント クリックアンドタイプ ビジネス文 | | |
| | 5 | Chapter6 表を使った文書の作成 | 表の作成 表の選択方法 表の編集 表の装飾 | | |
| | 6 | Chapter7 図形や画像を使った文書の作成 | 図形の作成 図形の編集 画像の挿入 横書きテキストボックスの挿入 ワードアートの挿入 | | |
| | 7 | 総合学習問題 | 問題実施後、解答解説 | | |
| | 8 | 練習問題 練習問題1 | 問題実施後、解答解説 | | |
| | 9 | 練習問題 練習問題2 | 問題実施後、解答解説 | | |
| | 10 | 練習問題 練習問題3 | 問題実施後、解答解説 | | |
| | 11 | 模擬問題 模擬問題1 | 問題実施後、解答解説 | | |
| | 12 | 模擬問題 模擬問題2 | 問題実施後、解答解説 | | |
| | 13 | 模擬問題 模擬問題3 | 問題実施後、解答解説 | | |
| | 14 | 模擬問題 模擬問題4 | 問題実施後、解答解説 | | |
| | 15 | 模擬問題 模擬問題5 | 問題実施後、解答解説 | | |
| | 16 | 模擬問題 模擬問題6 | 問題実施後、解答解説 | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | プレゼンテーション実習 (PowerPoint2016) | | 指導担当者名 | 太田 光則 |
|---|---|-------------------------|-----------------------------------|-------|
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 28時間 | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | マイクロソフトPowerPoint操作方法及び、プレゼンテーション技法を学び、ビジネスユースにあったプレゼンテーションを自ら実践出来るようにするため、スライド作成能力とプレゼン実践力を身に付ける。また、2月に行われる、「PowerPoint技能認定試験初級」の取得を目指す。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | | |
| 使用教材 | PowerPoint 2016クイックマスター基本編、PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験問題集 | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 後期 | 17 | プレゼンテーション概要 | プレゼンテーションの必要性 テキスト P1～P24 | |
| | 18 | パワーポイントの基礎知識 | パワーポイントの画面構成・操作 テキスト P25～P42 | |
| | 19 | プレゼンテーション作成 | スライドの作成方法 保存方法 他 テキスト P43～P54 | |
| | 20 | プレゼンテーションの構成とデザイン 文字の編集 | スライドの構成 文字表現 テキスト P56～P84 | |
| | 21 | オブジェクトの作成 | 図形・表・クリップアートの利用と作成 テキスト P85～P117 | |
| | 22 | 自己紹介 スライド作成実習 | 【自分オリジナル】自己紹介スライド作成 テキスト P118 | |
| | 23 | 表示効果とハイパーリンク | 画面切り替え効果とアニメーション テキスト P119～P136 | |
| | 24 | スライドショーの実行 | スライドショーの実行操作・自動実行 テキスト P137～P152 | |
| | 25 | 自分の好きな場所 までの地図をスライドで作成 | 【自分オリジナル】 地図スライド作成 | |
| | 26 | テーマカスタマイズ スマートアート | テーマのカスタマイズ テキスト P153～P182 | |
| | 27 | グラフの追加・図の加工 プレゼン動作設定 | スライドへ図の追加 セクション設定等 テキスト P183～P214 | |
| | 28 | 期末テスト | | |
| | 29 | まとめ | 期末テスト復習 検定試験対策問題 テキスト・問題集 | |
| | 30 | まとめ | 検定試験対策問題 テキスト・問題集 | |
| 31 | まとめ | 検定試験対策問題 テキスト・問題集 | | |
| 32 | まとめ | 検定試験対策問題 テキスト・問題集 | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|-----------------------------|----------------------|
| 科目名 | 英会話 I A | 指導担当者名 | Sean Payne |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | それぞれの現場設定シチュエーションにおいて会話を進行できるようになる | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | WORL ENGLISH Intro SECOND EDITION | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | UNIT1 Friends and Family | 家族の紹介の仕方 |
| | 2 | UNIT2 Jobs Around the World | 職業の種類 |
| | 3 | UNIT2 Jobs Around the World | 職業の説明 |
| | 4 | UNIT3 Houses and Apartments | 家のものの紹介 |
| | 5 | UNIT3 Houses and Apartments | 家の説明 |
| | 6 | UNIT4 Possessions | 持ち物の説明① |
| | 7 | UNIT4 Possessions | 持ち物の説明② |
| | 8 | UNIT5 Daily Activities | 時制 |
| | 9 | UNIT5 Daily Activities | 行動 |
| | 10 | UNIT6 Getting There | 道案内① |
| | 11 | UNIT6 Getting There | 道案内② |
| | 12 | UNIT7 Free Time | 今何をしているかの聞き方 |
| | 13 | UNIT7 Free Time | 今何をしているかの聞き方(電話) |
| | 14 | UNIT8 Clothes | Can/Could (丁寧な要求の仕方) |
| | 15 | UNIT8 Clothes | Could you |
| | 16 | UNIT9 Eat Well | Some and Any |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--|--|-----------------------------|------------------|
| 科目名 | 英会話 I B | 指導担当者名 | Sean Payne |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | それぞれの現場設定シチュエーションにおいて会話を進行できるようになる | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | WORL ENGLISH Intro SECOND EDITION | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後期 | 17 | UNIT9 Eat Well | And |
| | 18 | UNIT10 Health | 一般動詞① |
| | 19 | UNIT10 Health | 一般動詞② |
| | 20 | UNIT11 Making Plans | Be going to |
| | 21 | UNIT11 Making Plans | Be going to(短縮形) |
| | 22 | UNIT12 On The Move | 過去形① |
| | 23 | UNIT12 On The Move | 過去形② |
| | 24 | UNIT1 Friends and Family | 自己紹介 |
| | 25 | UNIT1 Friends and Family | 家族の紹介の仕方 |
| | 26 | UNIT2 Jobs Around the World | 職業の種類 復習 |
| | 27 | UNIT2 Jobs Around the World | 職業の説明 復習 |
| | 28 | UNIT3 Houses and Apartments | 家のものの紹介 復習 |
| | 29 | | |
| | 30 | | |
| 31 | | | |
| 32 | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|----------------------|------------------------------|-------|
| 科目名 | ホテル業界研究 | | 指導担当者名 | 遠藤紀子 |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習:○ | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 28時間 | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | 日本国内、および世界のホテルや旅館を研究し、今求められているホテルのサービスの在り方やハード、ソフト面の特徴をとらえる。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | HP、ホテル資料、ホテル旅館 | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 後期 | 17 | ホテルの分類・近年のホテル業界 | 説明 | |
| | 18 | 福島県内宿泊施設と観光スポットの提案 | プレゼン用宿泊施設の決定 | |
| | 19 | 各自特徴のあるホテルについて調べまとめる | インターネット、雑誌、文献を調べる | |
| | 20 | プレゼン資料作成 | インターネット、雑誌、文献を調べる | |
| | 21 | プレゼン資料作成 | インターネット、雑誌、文献を調べる | |
| | 22 | プレゼン資料作成 | インターネット、雑誌、文献を調べる | |
| | 23 | プレゼン資料作成 | 発表練習 | |
| | 24 | 発表 | 各自5分程度で発表する、発表内容についてブラッシュアップ | |
| | 25 | 日本国内宿泊施設と観光スポットの提案 | 各自研究 | |
| | 26 | 日本国内宿泊施設と観光スポットの提案 | パワーポイントにて作成 | |
| | 27 | 日本国内宿泊施設と観光スポットの提案 | パワーポイントにて作成 | |
| | 28 | 日本国内宿泊施設と観光スポットの提案 | パワーポイントにて作成 | |
| | 29 | 日本国内宿泊施設と観光スポットの提案 | パワーポイントにて作成 | |
| | 30 | 日本国内宿泊施設と観光スポットの提案 | 各自5分程度で発表する | |
| | 31 | 前期試験 | | |
| 32 | 発表 | 各自発表・まとめ | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|--------------|------------------|
| 科目名 | イベント運営実習 | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 28時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | 卒研プレゼン大会の企画運営を通し、イベントの企画力・運営力・チームワーク力を養う。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | 授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 17 | オリエンテーション | 導入・動機付け |
| | 18 | イベント運営の下準備 | MICEとは? |
| | 19 | イベント運営の下準備 | 昨年の卒研プレゼン大会の映像鑑賞 |
| | 20 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 代表決め、企画・運営チーム分け |
| | 21 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 企画コンセプト検討 |
| | 22 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 企画スケジュール検討(全体) |
| | 23 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 企画スケジュール検討(各チーム) |
| | 24 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 卒研プレゼン大会 準備 |
| | 25 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 卒研プレゼン大会 準備 |
| | 26 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 中間報告会 |
| | 27 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 卒研プレゼン大会 準備 |
| | 28 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 卒研プレゼン大会 準備 |
| | 29 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 卒研プレゼン大会 準備 |
| | 30 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 卒研プレゼン大会 準備物手配 |
| | 31 | 卒研プレゼン大会企画準備 | 卒研プレゼン大会 リハーサル |
| 32 | 卒研プレゼン大会 | 卒研プレゼン大会 本番 | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|----------------|-------------------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 48時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 2年間の集大成を卒業研究として研究し、まとめる。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | | | | |
| 授業外学習の方法 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 後期 | 17 | オリエンテーション | オリエンテーション | |
| | 18 | 以前までのプレゼン資料を参考 | 昨年の卒業研究のプレゼン資料 | |
| | 19 | 以前までのプレゼン資料を参考 | 一昨年の卒業研究のプレゼン資料 | |
| | 20 | 内容検討 | 研究テーマ検討 | |
| | 21 | 内容検討 | 研究スケジュール検討 | |
| | 22 | 調査・研究 | 各学生のテーマに合わせた調査・研究 | |
| | 23 | 調査・研究 | フィードバック | |
| | 24 | 調査・研究 | 各学生のテーマに合わせた調査・研究 | |
| | 25 | 調査・研究 | フィードバック | |
| | 26 | 卒業研究の発表準備 | 中間報告 | |
| | 27 | 卒業研究の発表準備 | プレゼン資料の作りこみ | |
| | 28 | 卒業研究の発表準備 | プレゼン資料の作りこみ | |
| | 29 | 卒業研究の発表準備 | リハーサル | |
| | 30 | 発表 | 卒業研究の発表 | |
| | 31 | 卒研プレゼン大会への準備 | 卒研プレゼン大会への準備 | |
| 32 | 卒研プレゼン大会 | 卒研プレゼン大会 | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|--------------|-------------------------|
| 科目名 | キャリアプランⅡ | 指導担当者名 | 遠藤紀子 |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 80時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な心構えとビジネスマナーの習得 ・就職活動に向けて各自の目標達成 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | 面接対策&ビジネスマナーのテキスト、iPad、プリント | | |
| 授業外学習の方法 | 課題プリントで自主学習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | 就職支援について | 就職支援システム、申請書発行サービスの使用方法 |
| | 2 | 就職活動準備 | 就職活動スケジュールについて考える |
| | 3 | 就職活動準備 | 企業研究 |
| | 4 | グループディスカッション | グループディスカッションについて |
| | 5 | グループディスカッション | グループディスカッションの実践 |
| | 6 | 他己紹介 | 2人組でインタビュー |
| | 7 | 他己紹介 | プレゼン資料の作成 |
| | 8 | 他己紹介 | プレゼン資料の作成 |
| | 9 | 他己紹介 | 発表 |
| | 10 | 他己紹介 | 振り返り |
| | 11 | 企業訪問 | 注意すること |
| | 12 | ビジネス文書 | ビジネス文書の書き方 |
| | 13 | ビジネス文書 | 実践 |
| | 14 | 礼状 | 礼状の書き方 |
| | 15 | 礼状 | 実践 |
| | 16 | 前期のまとめ | 総復習 |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | キャリアプランⅡ | | 指導担当者名 | 遠藤紀子 | |
|--|--|------------------|---------------------|-------|---|
| 実務経験 | | | | 実務経験: | 無 |
| 開講時期 | 通年 | | 対象学科学年 | 観光科2年 | |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 80時間 | | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な心構えとビジネスマナーの習得 ・就職活動に向けて各自の目標達成 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 面接対策&ビジネスマナーのテキスト、プレゼンテーション技法、iPad、プリント | | | | |
| 授業外学習の方法 | 課題プリントで自主学習 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後期 | 17 | 電話対応 | 電話対応の仕方を学ぶ | | |
| | 18 | 電話対応 | 実践 | | |
| | 19 | 電話対応 | 実践 | | |
| | 20 | 立ち居振る舞い | 来客者への対応の仕方を学ぶ | | |
| | 21 | 立ち居振る舞い | 実践 | | |
| | 22 | プレゼンテーションツールの技術 | プレゼンテーションとは | | |
| | 23 | プレゼンテーションツールの技術 | プレゼンテーションツールの種類と効果 | | |
| | 24 | プレゼンテーションツールの技術 | プレゼンテーションツール作成の基礎知識 | | |
| | 25 | プレゼンテーションツールの技術 | プレゼンテーションツール作成の基礎知識 | | |
| | 26 | ビジネスコミュニケーションの技術 | ビジネスコミュニケーションの必要性 | | |
| | 27 | ビジネスコミュニケーションの技術 | ビジネスコミュニケーションの種類 | | |
| | 28 | ビジネスコミュニケーションの技術 | ビジネスのハウレンソウとは | | |
| | 29 | 期末試験 | 期末試験 | | |
| | 30 | 論理的思考の基礎 | 論理的思考・表現の訓練 | | |
| 31 | 論理的思考の基礎 | 論理的思考・表現の訓練 | | | |
| 32 | 論理的思考の基礎 | 論理的思考・表現の訓練 | | | |
| <p>履修上の留意点</p> <p style="padding-left: 20px;">出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|----------------|--|-----------|---------------------|---------|
| 科目名 | 海外観光資源 | | 指導担当者名 | 熊田 芳子 |
| 実務経験 | 航空会社および旅行会社にて14年従事 | | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科2年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 63時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 総合旅行業務取扱管理者試験の合格する為の知識を身につける。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | U-CANテキスト | | | |
| 授業外学習の方法 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | アジア | シンガポール・マレーシア | |
| | 2 | アジア | インドネシア・カンボジア | |
| | 3 | アジア | インド・ネパール | |
| | 4 | アジア | ブータン・スリランカ | |
| | 5 | ヨーロッパ | イギリス | |
| | 6 | ヨーロッパ | ベルギー・オランダ | |
| | 7 | ヨーロッパ | ノルウェー・スウェーデン・フィンランド | |
| | 8 | ヨーロッパ | デンマーク・ドイツ | |
| | 9 | ヨーロッパ | スイス・オーストリア | |
| | 10 | ヨーロッパ | フランス | |
| | 11 | ヨーロッパ | イタリア・スペイン | |
| | 12 | ヨーロッパ | ポルトガル・ギリシャ・チェコ | |
| | 13 | ヨーロッパ | ハンガリー・ロシア | |
| | 14 | 南北アメリカ | アメリカ | |
| | 15 | 南北アメリカ | 期末試験 | |
| | 16 | 南北アメリカ | カナダ | |
| 履修上の留意点 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------|--|-----------|-----------------|
| 科目名 | 海外観光資源 | 指導担当者名 | 熊田 芳子 |
| 実務経験 | 航空会社および旅行会社にて14年従事 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 63時間 | 週時間数 | 3時間 |
| 学習到達目標 | 総合旅行業務取扱管理者試験の合格する為の知識を身につける。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | U-CANテキスト | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 17 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 18 | 総合対策 | 模擬試験等 |
| | 19 | 総合対策 | 模擬試験等 |
| | 20 | 総合対策 | 模擬試験等 |
| | 21 | 総合対策 | 模擬試験等 |
| | 22 | | |
| | 23 | | |
| | 24 | | |
| | 25 | | |
| | 26 | | |
| | 27 | | |
| | 28 | | |
| | 29 | | |
| | 30 | | |
| 31 | | | |
| 32 | | | |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|-----------|-----------------|
| 科目名 | 海外旅行実務 | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 21時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 総合旅行業務取扱管理者試験の合格する為の知識を身につける。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | U-CANテキスト | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 2 | 海外旅行実務 | 時差とは |
| | 3 | | |
| | 4 | 海外旅行実務 | 時差の計算 |
| | 5 | 海外旅行実務 | 時差の計算 |
| | 6 | 海外旅行実務 | 飛行所要時間 |
| | 7 | 海外旅行実務 | 飛行所要時間 |
| | 8 | 海外旅行実務 | MCT |
| | 9 | 海外旅行実務 | MCT |
| | 10 | 海外旅行実務 | MCT |
| | 11 | 海外旅行実務 | クルーズ |
| | 12 | 海外旅行実務 | ホテル |
| | 13 | 海外旅行実務 | 鉄道 |
| | 14 | 海外旅行実務 | 海外旅行保険 |
| | 15 | | |
| | 16 | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)(改定案)

| | | | |
|---|--|-----------|-----------------|
| 科目名 | 海外旅行実務 | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 21時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 研修旅行の準備・手配・企画運営を行なうとともに、福島県のサポート事業の企画・運営を行なう。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 17 | オリエンテーション | |
| | 18 | 総合対策 | 模擬試験等 |
| | 19 | 総合対策 | 模擬試験等 |
| | 20 | 総合対策 | 模擬試験等 |
| | 21 | 総合対策 | 模擬試験等 |
| | 22 | | |
| | 23 | | |
| | 24 | | |
| | 25 | | |
| | 26 | | |
| | 27 | | |
| | 28 | | |
| | 29 | | |
| | 30 | | |
| 31 | | | |
| 32 | | | |
| <p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|----------------|--|-----------|-----------------|
| 科目名 | 出入国法令 | 指導担当者名 | 熊田 芳子 |
| 実務経験 | 航空会社および旅行会社にて14年従事 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 21時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 旅行会社での業務の基礎知識を身につける。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | U-CANテキスト | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | 出入国法令と実務 | 旅券法 |
| | 2 | 出入国法令と実務 | 旅券法 |
| | 3 | 出入国法令と実務 | 旅券法 |
| | 4 | 出入国法令と実務 | 旅券法 |
| | 5 | 出入国法令と実務 | 査証手続き |
| | 6 | 出入国法令と実務 | 渡航手続き |
| | 7 | 出入国法令と実務 | 渡航手続き |
| | 8 | 出入国法令と実務 | 渡航手続き |
| | 9 | 出入国法令と実務 | 税関手続き |
| | 10 | 出入国法令と実務 | 税関手続き |
| | 11 | 出入国法令と実務 | 税関手続き |
| | 12 | 出入国法令と実務 | 税関手続き |
| | 13 | 出入国法令と実務 | 外国人再入国手続き |
| | 14 | 出入国法令と実務 | 外国人再入国手続き |
| | 15 | 出入国法令と実務 | 期末試験 |
| | 16 | 出入国法令と実務 | 予備日 |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------|--|-----------|-----------------|
| 科目名 | 出入国法令 | 指導担当者名 | 熊田 芳子 |
| 実務経験 | 航空会社および旅行会社にて14年従事 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 | 対象学科学年 | 観光科 2年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 21時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 旅行会社での業務の基礎知識を身につける。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | U-CANテキスト | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 17 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 18 | 総合対策 | 総合対策 |
| | 19 | 総合対策 | 総合対策 |
| | 20 | 総合対策 | 総合対策 |
| | 21 | 総合対策 | 総合対策 |
| | 22 | | |
| | 23 | | |
| | 24 | | |
| | 25 | | |
| | 26 | | |
| | 27 | | |
| | 28 | | |
| | 29 | | |
| | 30 | | |
| 31 | | | |
| 32 | | | |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--------------|--|---|--|---------|
| 科目名 | 観光英語ⅡA | | 指導担当者名 | 平野 二美子 |
| 実務経験 | ホテルおよび全国通訳案内士で通訳業務に6年間従事 | | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科2年 | |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習:○ | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | 観光英語検定試験2級・3級合格に必要な実力の養成(10月下旬) | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | English for Tourism (Basic) / 観光英語検定試験頻出150項目 / 観光英語過去問題 / プリントなど | | | |
| 授業外学習の方法 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 前期 | 1 | Unit 1 Travel Day 1 | 1 Vocabulary, 2 Conversation, 頻出150項目p.153~156 | |
| | 2 | Unit 1 Travel Day 2 | 3 Listening, 4 Reading part1 & 2, Unit1 小テスト | |
| | 3 | Unit 1 Travel Day 3 | 5 Writing, 6 Role-play part1, 2 & 3, 連休課題のチェック第37回 | |
| | 4 | Unit 2 Jobs & People Day 1 | 1 Vocabulary, 2 Conversation, 3 Listening, 小テスト課題から | |
| | 5 | Unit 2 Jobs & People Day 2 | 4 Reading, part 1,2 & 3, 頻出150項目p.121~122、小テストUnit2 | |
| | 6 | Unit 2 Jobs & People Day 3 | 5 Writing, 6 Pair work, part1 & 2, 過去問題第37回 小テスト頻出 | |
| | 7 | Unit 3 Getting on the plane Day 1 | 1 Vocabulary, 2 Conversation, 3 Listening, 頻出項目p.142~152 | |
| | 8 | Unit 3 Getting on the plane Day 2 | 4 Reading, 5 Writing, 6 Role-play, 頻出項目p.142~152 小テストU3 | |
| | 9 | Unit 3 Getting on the plane Day 3 | 頻出項目p.142~152 | |
| | 10 | Unit 4 At the Immigration and Customs Day 1 | 1 Vocabulary, 2 Conversation, part1&2, 頻出項目p.122~140 | |
| | 11 | Unit 4 At the Immigration and Customs Day 2 | 3 Reading, 4 Writing, 頻出項目p.122~140, 小テストUnit4 | |
| | 12 | Unit 4 At the Immigration and Customs Day 3 | 5 Role-play, 頻出項目p.122~140 | |
| | 13 | 前期学習のまとめ | テキスト、頻出項目150 | |
| | 14 | 前期末試験 | 1時限目:復習、2時限目:試験 | |
| | 15 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 | |
| | 16 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 | |
| 履修上の留意点 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|----------------|--|-----------------------------|--|
| 科目名 | 観光英語ⅡB | 指導担当者名 | 平野 二美子 |
| 実務経験 | ホテルおよび全国通訳案内士で通訳業務に6年間従事 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習:○ | 実習: 実技: |
| 時間数 | 46時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | 出席率(10%)、授業態度(10%)、小テスト等(20%)、期末試験(60%) | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | English for Tourism (Basic) / 観光英語検定試験頻出150項目 / 観光英語過去問題 / プリントなど | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 17 | | |
| | 18 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 19 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 20 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 21 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 22 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 23 | 観光英語検定試験対策 | 小テスト・過去問題を使い演習・解説 |
| | 24 | | |
| | 25 | Unit 5 Day 1 At the Airport | 1 Vocabulary, 2 Conversation, 3 Listening, Words & Phrases |
| | 26 | Unit 5 Day 2 At the Airport | 4 Reading, 5 Writing, 6 Role-play, 小テスト Unit 5 |
| | 27 | Unit 5 Day 3 At the Airport | 頻出項目: 空港・飛行機編の復習と道案内への対応p.229~ |
| | 28 | 過去問解析・頻出150項目 | 様々な場面での専門的な用語や言い回しを習得する |
| | 29 | 過去問解析・頻出150項目 | 様々な場面での専門的な用語や言い回しを習得する |
| | 30 | 後期学習のまとめ | テキスト、頻出項目150 |
| 31 | 学年末試験 | 1時限目: 復習、2時限目: 試験 | |
| 32 | 観光英語授業のまとめ | 1年間の授業を振り返り、今後の学習の動機付けとする | |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|---------------------|---------------------|
| 科目名 | 国内旅行プランニングⅡA | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 72時間 | 週時間数 | 6時間 |
| 学習到達目標 | 研修旅行の準備・手配・企画運営を行なうとともに、福島県のサポート事業の企画・運営を行なう。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 2 | 研修旅行 | 研修旅行の内容振り返り・コースの見直し |
| | 3 | 研修旅行 | 研修旅行の内容振り返り・コースの見直し |
| | 4 | 研修旅行 | 研修旅行・旅行前説明会準備 |
| | 5 | 研修旅行 | 研修旅行・旅行前説明会準備 |
| | 6 | 研修旅行 | 研修旅行 添乗準備 |
| | 7 | 研修旅行 | 研修旅行 添乗準備 |
| | 8 | 研修旅行 | 研修旅行実施 |
| | 9 | 研修旅行 | 研修旅行のまとめ |
| | 10 | 研修旅行 | 研修旅行のまとめ |
| | 11 | 研修旅行 | 研修旅行 報告会 |
| | 12 | 2019年度サポート事業 プランニング | 2019年度サポート事業 プランニング |
| | 13 | 2019年度サポート事業 プランニング | 2019年度サポート事業 プランニング |
| | 14 | 2019年度サポート事業 プランニング | 2019年度サポート事業 プランニング |
| | 15 | 2019年度サポート事業 プランニング | 2019年度サポート事業 プランニング |
| | 16 | 2019年度サポート事業 プランニング | 2019年度サポート事業 プランニング |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|--------------|-----------------|
| 科目名 | 国内旅行プランニングⅡB | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 72時間 | 週時間数 | 6時間 |
| 学習到達目標 | 研修旅行の準備・手配・企画運営を行なうとともに、福島県のサポート事業の企画・運営を行なう。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後期 | 17 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 18 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 19 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 20 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 21 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 22 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 23 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 24 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 25 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 26 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 27 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー最終準備 |
| | 28 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー実施 |
| | 29 | 研修旅行プランニング | オリエンテーション |
| | 30 | 研修旅行プランニング | グループ分け・目的地研究 |
| 31 | 研修旅行プランニング | プランニング | |
| 32 | 研修旅行プランニング | プランニング | |
| <p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|--------------|-----------------|
| 科目名 | 国内旅行プランニングⅡB | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 56時間 | 週時間数 | 6時間 |
| 学習到達目標 | 研修旅行の準備・手配・企画運営を行なうとともに、福島県のサポート事業の企画・運営を行なう。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後期 | 17 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 18 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 19 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 20 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 21 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 22 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 23 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 24 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 25 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 26 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 27 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー最終準備 |
| | 28 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー実施 |
| | 29 | 研修旅行プランニング | オリエンテーション |
| | 30 | 研修旅行プランニング | グループ分け・目的地研究 |
| 31 | 研修旅行プランニング | プランニング | |
| 32 | 研修旅行プランニング | プランニング | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------------|--|----------------|------------------------|
| 科目名 | 海外旅行プランニング | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 50時間 | 週時間数 | 3時間 |
| 学習到達目標 | 海外研修の下準備を行なうとともに、オプションツアーの提案のチラシや旅行のしおりの作成を行なう | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後期 | 17 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 18 | 海外研修準備 | 海外研修のオプションツアーの提案のチラシ作成 |
| | 19 | 海外研修準備 | 試し刷り・調整 |
| | 20 | 海外研修準備 | 完成 |
| | 21 | 海外研修準備 | 海外研修のしおり作成 |
| | 22 | 海外研修準備 | 海外研修のしおり作成 |
| | 23 | 海外研修準備 | 中間まとめ |
| | 24 | 海外研修準備 | 試し刷り・調整 |
| | 25 | 海外研修準備 | 完成 |
| | 26 | 海外研修先の調査・研究 | 地理・歴史・観光地 |
| | 27 | 海外研修先の調査・研究 | アクティビティ |
| | 28 | 海外研修先の調査・研究 | グルメ・お土産 |
| | 29 | 理想の海外旅行のプランニング | 既存のパンフレット研究 |
| | 30 | 理想の海外旅行のプランニング | プランニング先の決定 |
| 31 | 理想の海外旅行のプランニング | プランニング先の決定 | |
| 32 | 理想の海外旅行のプランニング | 発表 | |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|---|--------------|-------------------|
| 科目名 | 観光実務ⅡA | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 56時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | 観光業に関わる知識を養うとともに、 福島県のサポート事業の企画・運営を行なう。 | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 2 | | |
| | 3 | 平成30年度サポート事業 | 平成30年度サポート事業 振り返り |
| | 4 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 旅行前説明会 |
| | 5 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 海外旅行保険案内 |
| | 6 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 調査・研究 |
| | 7 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 調査・研究 |
| | 8 | | |
| | 9 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) まとめ |
| | 10 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) まとめ |
| | 11 | 研修旅行(台湾) | 研修旅行(台湾) 報告会 |
| | 12 | 2019年度サポート事業 | アンケート作成 |
| | 13 | 2019年度サポート事業 | アンケート修正 |
| | 14 | 2019年度サポート事業 | アンケート分析・研究 |
| | 15 | 2019年度サポート事業 | プランニング |
| | 16 | 2019年度サポート事業 | プランニング |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--|--|--------------|-----------------|
| 科目名 | 観光実務ⅡB | 指導担当者名 | 佐藤 宗 |
| 実務経験 | 旅行会社にて4年間従事した経歴 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 56時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | 旅行会社で必要となるプランニング力を養う。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後期 | 17 | | |
| | 18 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| | 19 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 20 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 21 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集 |
| | 22 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 23 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 24 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 25 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 26 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー募集・準備 |
| | 27 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー最終準備 |
| | 28 | 2019年度サポート事業 | モニターツアー実施 |
| | 29 | 2019年度サポート事業 | モニターツアーまとめ |
| | 30 | 2019年度サポート事業 | モニターツアーまとめ |
| 31 | 2019年度サポート事業 | モニターツアーまとめ | |
| 32 | 2019年度サポート事業 | モニターツアーまとめ | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|----------------|--|-----------|---------------------------------|-------|
| 科目名 | 表計算実習(Excel2016) | | 指導担当者名 | 太田 光則 |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | <p>マイクロソフトExcel2013操作方法及び、計算処理方法を学び、ビジネスユースにあった計算処理能力を学び、実践で活用できるようにする。 また、9月に行われる、「Excel文書処理技能認定試験3級」の取得を目指す。</p> | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | Excel2016 クイックマスター基本編、Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | Excelの基本 | Excelの基本操作、データ入力・編集等 教科書 P1～P58 | |
| | 2 | データの編集 | データ入力 数値入力 教科書 P59～P84 | |
| | 3 | データの編集 | 相対参照 絶対参照 | |
| | 4 | 表の編集 | 罫線 セル書式設定 教科書 P85～P102 | |
| | 5 | ブックの印刷 | ページ設定 印刷範囲の指定 | |
| | 6 | グラフと図形の作成 | グラフ作成・図形の作成 教科書 P103～P140 | |
| | 7 | ブックの利用と管理 | ワークシート | |
| | 8 | 関数 | 統計関数 三角関数 教科書 P141～P156 | |
| | 9 | 関数 | 論理関数 日付関数 教科書 P141～P156 | |
| | 10 | データベース機能 | リストの作成 並び替え | |
| | 11 | データベース機能 | データの抽出 テーブル機能 教科書 P191～P212 | |
| | 12 | 総合問題 | 問題演習 | |
| | 13 | 期末テスト 実施 | | |
| | 14 | 海の日 祝日 | | |
| | 15 | まとめ | 認定試験対策 教科書・問題集 | |
| | 16 | まとめ | 認定試験対策 教科書・問題集 | |
| 履修上の留意点 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------|
| 科目名 | ビジネス電話演習 | | 指導担当者名 | 木村美紀子 |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習:○ | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | ビジネス電話に関する知識、技能を習得し職場で求められる業務ができるようになる。ビジネス電話検定B級習得を目標とする。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | ビジネス電話検定受験ガイド、問題集 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 後期 | 17 | ビジネス電話の基本 | 基本的な敬語 | |
| | 18 | ビジネス電話4つの心得 | 迅速・正確・簡潔・丁寧について | |
| | 19 | 電話対応の実例 | 第一声、応対言葉、復唱言葉 | |
| | 20 | 間違い電話への対応 | 実践練習 | |
| | 21 | 携帯電話のマナー | 情報管理のマナー | |
| | 22 | オフィスでの一般的な電話対応 | 第一声、取り次ぎ、伝言メモ作成 | |
| | 23 | 言葉遣い | 不快感を与える言葉の認識 | |
| | 24 | 検定対策 | 練習問題 | |
| | 25 | ケーススタディ | 会社を代表しての対応 | |
| | 26 | ケーススタディ | 話しの要約 | |
| | 27 | ケーススタディ | 整った口調 | |
| | 28 | ケーススタディ | 電話のかけ方実践 | |
| | 29 | ケーススタディ | 電話のかけ方実践 | |
| | 30 | 総まとめ | ロールプレイングにより、実践力を身につける | |
| 31 | 後期試験 | | | |
| 32 | 総まとめ | ロールプレイングにより、実践力を身につける | | |
| 履修上の留意点 | | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | 英会話ⅡA | | 指導担当者名 | Sean Payne |
|----------------|--|---------------|--------------------------|------------|
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科2年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | それぞれの現場設定シチュエーションにおいて会話を進行できるようになる | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | ホテルの英会話ハンドブック | | | |
| 授業外学習の方法 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | フロント・宿泊業務 | 電話番号調べの依頼 | |
| | 2 | フロント・宿泊業務 | 宿泊予約の受付ー希望をきくー | |
| | 3 | フロント・宿泊業務 | 宿泊予約の受付ー予約を受けるー | |
| | 4 | 電話オペレータ業務 | 外線からの電話の取り次ぎ | |
| | 5 | 電話オペレータ業務 | 館内の呼び出し | |
| | 6 | 電話オペレータ業務 | 電話で伝言を受ける | |
| | 7 | 電話オペレータ業務 | お客様に伝言を伝える | |
| | 8 | 電話オペレータ業務 | ダイヤル直通電話の案内 | |
| | 9 | 電話オペレータ業務 | 指名通話の申し込み | |
| | 10 | 電話オペレータ業務 | コレクトコール・クレジットカードコールの申し込み | |
| | 11 | 電話オペレータ業務 | コレクトコールを受ける | |
| | 12 | レストラン・バンケット業務 | レストランの予約を受ける | |
| | 13 | | | |
| | 14 | レストラン・バンケット業務 | 席に案内する | |
| | 15 | レストラン・バンケット業務 | オーダーテイクー和食ー | |
| | 16 | レストラン・バンケット業務 | オーダーテイクー洋食ー | |
| 履修上の留意点 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------|--|-------------------|-----------------|
| 科目名 | 英会話ⅡB | 指導担当者名 | Sean Payne |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | それぞれの現場設定シチュエーションにおいて会話を進行できるようになる | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | ホテルの英会話ハンドブック | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 17 | レストラン・バンケット業務 | レストランでの会計 |
| | 18 | レストラン・バンケット業務 | ルームサービス |
| | 19 | レストラン・バンケット業務 | ギフトショップで |
| | 20 | レストラン・バンケット業務 | 館内の案内 |
| | 21 | レストラン・バンケット業務 | とっさの対応 |
| | 22 | レストラン・バンケット業務 | クロークの対応 |
| | 23 | お客様のリクエストとホテル側の対応 | 部屋番号・金額などのいい方 |
| | 24 | 緊急時の対応 | 電話番号・日付などのいい方 |
| | 25 | フロント・宿泊業務 | チェックイン |
| | 26 | | |
| | 27 | フロント・宿泊業務 | チェックアウト |
| | 28 | フロント・宿泊業務 | お部屋への案内と説明 |
| | 29 | | |
| | 30 | | |
| 31 | | | |
| 32 | | | |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------|---|--------------|-----------------------|
| 科目名 | ホテル概論 I | 指導担当者名 | 木村美紀子 |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 28時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | ホテルの宿泊部門について学び、ホテルビジネス実務検定試験の合格を目指す。 サーティファイホテル実務技能検定初級(7月16日) | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | |
| 使用教材 | ウィネット「ホテルテキスト宿泊 I フロントオフィス編」「ホテルテキスト宿泊 II フロントサービス編」 | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 前期 | 1 | フロントフィスとは | 意義と役割、組織と業務 |
| | 2 | 客室の種類 | 客室タイプ料金システム |
| | 3 | リザーベーション業務 | 予約業務、イールドマネジメント |
| | 4 | リザーベーション業務 | 電話予約、予約受付 |
| | 5 | レセプション業務 | レセプションサービス、ルームアサインメント |
| | 6 | レセプション業務 | チェックイン・チェックアウト業務 |
| | 7 | フロントキャッシャー業務 | 会計業務、宿泊料金計算、貴重品預かり業務 |
| | 8 | インフォメーション業務 | ルーム・ハウス・シティインフォメーション |
| | 9 | 防犯業務 | 防犯管理、遺失物管理 |
| | 10 | フロントサービスとは | 組織と業務、従事者の基本 |
| | 11 | ドアマン | 業務、送迎、案内 |
| | 12 | ベルマン | 接客サービス、ロビー管理 |
| | 13 | クローク、コンシェルジュ | クロークルーム、歴史、業務 |
| | 14 | ハウスキーピング | 客室係、設備整理サービス |
| | 15 | 前期試験 | |
| | 16 | 実務 | ロールプレイングによる実務練習 |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------|---|------------------|----------------------|
| 科目名 | 消費者行動学 | 指導担当者名 | 太田光則 |
| 実務経験 | 企業コンサルタント業を経営 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 観光科2年 |
| 授業方法 | 講義:◎ | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | マーケティングや消費者行動を学ぶことで、ビジネスユースにあったモノの考え方、捉え方、お客様の行動に関して、仮説を立て活用できるようにする。 仲間と意見を出し合い、まとめて自分なりにプレゼンテーションできるようにする。 | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | |
| 使用教材 | いちばんやさしいコンテンツマーケティングの教本 1からの消費者行動 | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 前期 | 1 | イントロダクション | 個人としての消費者 |
| | 2 | 知覚・学習 | 露出・組織化 |
| | 3 | 記憶・態度 | 記憶のメカニズムと短期記憶 |
| | 4 | 意思決定 | 情報検索・態度 |
| | 5 | セグメンテーション | セグメンテーション・デモグラフィックス |
| | 6 | コミュニケーション | 発信源効果・メッセージ効果 |
| | 7 | 店頭マーケティング | アイデンティティと消費 |
| | 8 | 店頭マーケティング | インスタマーチャンドライジング |
| | 9 | 家族・集団 | 家族の購買意思決定 |
| | 10 | ステイタス・サブカルチャー | マイクロカルチャー・ブランドコミュニティ |
| | 11 | 文化 | 聖なる消費・俗なる消費 |
| | 12 | マーケティング戦略・プランニング | グループワーク |
| | 13 | マーケティング戦略・プランニング | グループワーク |
| | 14 | 期末テスト | |
| | 15 | マーケティング戦略・プランニング | グループワーク |
| | 16 | マーケティング戦略・プランニング | グループワーク |
| 履修上の留意点 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------|--|--------------------|---------------------|
| 科目名 | イベントプランニング | 指導担当者名 | 太田 光則 |
| 実務経験 | 企業コンサルタント業を経営 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 販売ビジネス科2年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 32時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | 消費者行動をベースに実際に企画を立案し、プレゼンまで実施できるレベルまでを目指す。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 17 | オリエンシートについて | オリエンシートの役割、アイデアの作り方 |
| | 18 | 企画書作成のポイント、企画書作成 | 全体の流れを把握、企画書作成の役割分担 |
| | 19 | 企画書作成(2) | 役割分担し企画書制作進行 |
| | 20 | 企画書作成(3) | 全体確認 |
| | 21 | 企画書作成(4) | 効果的なプレゼンについての講義 |
| | 22 | プレゼン演習 | 企画書まとめと演習 |
| | 23 | プレゼン実演・講評 | |
| | 24 | 企画立案とプレゼンについての振り返り | レポート作成 |
| | 25 | ビデオ学習、ディスカッション | プレゼンに関する番組からチョイス |
| | 26 | ビデオ学習、ディスカッション | アイデアに関する番組からチョイス |
| | 27 | ビデオ学習&レポート作成 | レポート作成 |
| | 28 | ビデオ学習&レポート作成 | レポート作成 |
| | 29 | 後期の振り返り | 後期全体についての復習 |
| | 30 | 期末試験 | |
| 31 | 検定対策 | お金にまつわる話 | |
| 32 | 検定対策 | 仕事は何のためにやるのか | |
| 履修上の留意点 | | | |